

〈翻訳〉

15世紀イングランドにおける 女性のための衛生書（Ⅱ）

末 広 菜 穂 子

{第四章は子宮の下降についてである。}

子宮の下降は、子宮が自然な位置から別の位置へ移動するときに生ずるもう一つの病気であり、二つの方向、すなわち横向きと下向きに起こる。もし、子宮が横へ移動すると、横腹に痛みを感ずる。下向きの移動は二通りの方法で起こる。完全に移動する場合とそうでない場合である。十分に移動しない場合、女性は陰部や肝臓に痛みを覚える。子宮がさまざまな方向に動くとき、女性にはそれが自分でわかる。この病気は、女性が失うべき血液の分泌が閉止したために生じる；あるいは子宮内にある悪い体液のせいで、これが子宮を下方や横へ動かすのである；または、冷たい石などの上に長時間座ったり、冷たい風呂に長く入ったり、冷たい水を飲み過ぎたりすることから起こる冷えによる麻痺のために子宮は移動する。そして子宮がこの麻痺を起こすと、初めは痛みや不快感を覚えることなく子宮が動く；あるいは、女性が [f.208r] 妊娠したときに起こる病気のために、子宮が動く。そしてもし、この病気が月経閉止のせい、または子宮内にあり、熱さか冷えのいずれかでゆがみを生じさせる腐敗した体液のせいであるなら、次章に記述されている徴候によってそれがわかる。この病気は、先に述べたように子宮から、そこに留められている血液ないしは内部の腐敗した体液が清められて排出されると、治癒される。しかし、もし病気が子宮の麻痺のためであるなら、前に述べた酢蜜 (oxymel; oximelle: 蜂蜜

を酢酸で薄めたもの。去痰剤などに用いる)を患者に用いさせる。その後、テオドリコン・エンピリコンを与え、三日目にはカラミント、オレガノ、ラヴェンダー、セージ、オランダガラシ、サクラソウ、ヒレハリソウ、ヘンルーダ入りの風呂に入れる。そして風呂から出たら、セージを入れて煮たワインとともに特効薬を与える。その翌日、踝の下の静脈から瀉血を行う。そして、軟膏を塗るが、それはゴボウ、ナッツの油、乳漿を一緒にして炒め、布で水気を絞った後、香料の粉とマスチックを入れたものであるが、へそのあたりから下へ体の前と後ろにこの調合した軟膏を塗る。また、一日に二回、ハコベの汁を澄んだワイン (clary; wyne clarre) に入れて飲むのも、子宮を引き上げることになる；あるいは他に、ハコベの汁とアグリッパ (軟膏として用いる薬用植物) を火の上にかけて混ぜ、これを体の両面に塗る。体の前部は、へそから下に塗る。そしてその上に洗わないままで刈り取った羊の毛をあてる；あるいは陰部や肝臓のあるあたりに温めた蜂蜜をすり込むか、マスチックの粉、香料、鹿角精を焦がしたもの、ロジンあるいは [f.208v] 松脂、オランダガラシの種を振りかけてから、体の両面とも薬をすり込んだところを灰で覆う。この薬は子宮内の冷たい体液にも同じく効力がある。もし病気が熱い体液のせいであるなら、バラの汁から作ったシロップを与えなさい。そしてその後、冷たい薬草風呂に入れ、踝の下の静脈で瀉血を行い、冷たい軟膏かオイルを塗る；またはオイルと同じだけの蜂蜜を取って、クミンの粉をそこにに入れて一緒に煮る。そして洗わず刈り取った羊の毛か黒いフェルトを濡らし、それをへそから下部の方とやや上の方にもあてる。しかし、出産後、子宮が秘所の下まで降りてきているときは、産婆にそれを手で再び押し戻させる。しかし、まず手にオイルを塗り、その後匂いのきついカミルレかまたは炭の中に投げ入れた牛の汚物で燻蒸させる。そして匂いの良いものを嗅がせる；あるいは、もし子宮を容易に中へ戻せないならば、コストマリー、ヨモギ、ニガヨモギを水に入れて煮て、女性を乳首が温まるくらいその湯につけ、かなりの時間そこに座らせておく。その後、湯から出たら、子宮を静かに戻し、そ

の日は9時間、横になって足を頭より上に上げておくと、子宮はもとの位置に戻るだろう。そして、子宮が戻れば、次のもの——牛の胆汁、新しいワイン、ナツメグ、甘松香、クローブ——を粉にし、一緒にして [f.209] 野生のタイムのオイルと混ぜ、良質の柔らかい麻布で作った小さな袋に入れて、卵の形に似た細長い球状にし、子宮がまた落ち込まないようにそれを秘所の中に入れる。そして子宮が再び落ちないように腰のところで子宮に包帯をする。しかし包帯を用いる前に、腰のあたりに、オランダガラシの種、ゲツケイジュ、クミン、野生のミントの粉で膏薬を作って貼る；器を火にかけ、蜂蜜と混ぜ、そのまま9日間置き、その間は排尿をしばしば起こさせない食べ物や飲物を女性に取らせる。

時には子供を産むのに難渋し、二つの秘所間の皮膚が裂け、まさに穴があき、子宮がそこからはみ出て堅くなることがある。このような困難な状態にある女性を助けるには、まずバターとワインを半時間煮る；その液体がすっかり温まったら、これを子宮の中に入れ、子宮を柔らかくするためにかなりの時間このワインで子宮をそっと扱い、慎重に手当する。その後、子宮を静かに戻して裂けた所を三箇所か四箇所、絹糸と角針で縫い合わせる。松脂を柔らかい麻布につけて秘所にあてると、松脂のいやな匂いが子宮を内側のもとの位置へ引っ込ませる。その後、ヒレハリソウの根、シナモン、麦わらを粉にし、傷が完全に治るまで傷口に塗る。それから前に述べたように [f.209v] 患者を7日間か9日間横にならせ、その間は飲食をあまりさせないようにし、寒さや、患者に少しでも咳をさせるような食べ物や飲物から十分遠ざける。女性が出産のときに体験するこの病を防ぐために、上質の麻布で丸い卵状のものを作り、それを肛門に入れ、出産時の痛みのたび、そして実際の出産のたびに、その球を肛門に押し込んでおくと皮膚が完全に裂けるのを防いでくれる。

しかし、子宮の下降においては、六つのことが必要である。まず、吸い玉による瀉血で、三箇所にする。最初の場所はへその少し下だが、リリ(Lilie)は、吸い玉による瀉血は乳首の所ですべきで、各側一つずつ行

い、これは子宮が再び本来の場所へ戻るように行われるものであると述べている。第二が下腹部燻蒸 (subfumigation; subfumigacion) で、これはスポイトと呼ばれる小さな器具を用いて行われ、それは次のようにしてなされる：陶製の小さな壺をとり、女性を穴のあいたベンチに座らせ、その小さな壺に火をつけた炭を入れて布で覆い、スポイト、すなわち小さな管であるが、これを壺の口にあてる。そして、女性は秘所にその器具を挿入してその器具を通ってきた煙をあてる。炭に次のような粉をかけてもよい。キジムシロ、アカシア、イブキトラノオ (shakeweed; bistorte) の根、ランをそれぞれ3ドラクマ、パセリ、ザクロの花を2ドラクマ、カヤツリグサ、杉の種、楓子香の葉、ミルテをそれぞれ5ドラクマとって、粉にする。この粉がきつい匂いの香辛料や血止め薬から作るのは、いやな匂いが子宮を [f.210r] もとの位置に押し上げるからである；しかし、いやな匂いが女性の鼻まで届かないように気をつけなさい。鼻に何か甘い匂いのする物をあてるべきで、これは、吸い玉箱を子宮の上に置いている間なされなければならない；そしてアヴィセンナは三番目にこう述べている：同様に、入浴はこうした必要の際にはよい。赤いバラの葉とミルテを2ドラクマ、モウズイカの根を二つかみ、キジムシロ、イブキトラノオの根、バラの花粉、マスチック、乳香を4オンス、阿魏を4ドラクマ、乾燥ヨモギ、ラヴェンダー4ドラクマを取り、乳鉢で搗りつぶし、袋に入れて少量のキイチゴワインで煮る。そしてもしこの袋を鍛冶屋水 (blacksmith's water; smethis water) の入った風呂に浸せば、いやな匂いがして血止めの効果のある物から作られているので、効き目がある。第四に、軟膏を陰部の入り口と腎臓のあたりに塗ることが必要である。その軟膏は次のようなものである：乳香、ミルテ、ユリのオイル、マスチック・オイルをそれぞれ6ドラクマ、阿魏、イブキトラノオの根、キジムシロ、蜜蝋をそれぞれ3ドラクマ取る。第五に、座薬を次のように作る：阿魏、マスチック、乳香、ミルテの種、カヤツリグサ、杉の種をそれぞれ1ドラクマ取り；粉にして、ミルテのオイルで希釈して座薬を作る。第六に、子宮が再び下降するのを

防ぐために秘所に膏薬を貼らねばならない；この膏薬は手のひらぐらいの大きさで、次のようにして作ることができる：4オンスのマスチック、半オンスの乳香、杉の種、かしわ没食子とミルテを1ドラクマずつ、パセリと野生のザクロを半ドラクマずつ、テレピン油を1ドラクマ取る；粉末にしうるものはすべて粉にし、バラ水で薄め、幅が手の指六倍分、長さが手の指八から十倍分の大きさの膏薬を作る。膏薬は薄く作る。また、患者に嘔吐を大いに催させる。これは [f.210v] この病気にとって最良の治療の一つである。そしてあらゆる種類のいやな匂いのする物をこうした状態にある患部の下に置いてみなさい；また、あらゆる種類の甘い匂いのする物を鼻にあてがいなさい。

{第五章は子宮内のガスについてである。}

子宮内には、女性を大いに悩ませるガスもまたたくさんあり、それはときには外部から、ときには内部から発生し、子宮に痛みを与え膨張させる。そしてそうしたガスの徴候には、膨張、内部の大きな動きや音、子宮内のガスによる腹部の痛みがある。この病気には、ガスを消滅させる練り薬を用いるのがよい。そして、そうした練り薬には、クミンで作った薬、アニスの練り薬、種子類で作った薬やその他費用のほとんどかからないクミン、ディル、アニス、ウイキョウの種、ヒメウイキョウ、野生のセロリ、ロヴァージュ・アンゼリカ、オランダガラシの種、ヒカゲミズのような物で作った薬があり、膏薬にして体の外部と内部の両方に貼ると、ガスを消滅させてくれる。また治療として、クミンと煤を水に入れて煮た液体を使いなさい；胃からまっすぐ秘所までを洗浄し、胃のあたりに熱くした膏薬を貼ると、概してこの薬はガスにきわめて効果がある。あるいは、ゼニアオイ、ヒカゲミズを煮出した水で立てた風呂に患者を入れ、陰部を薬草でよく洗う。風呂から出たら、耐えうる限り熱くしたヒカゲミズの膏薬を用い、それを腹部に貼る。もう一つの方法として、サビナビヤクシンとカブラを湯で煮て、その水で患者の胃から秘所の所までよく洗浄する。これもまた効

果がある。男性の体に起こる腹の差し込みやガスに対して効き目のある他の薬は、この病気によい。たとえば [f.211r] ハトの糞をワインで煮て作った膏薬があるが、ワインを飲んでもよい。別の処方では羊の暖かい糞を取って、乳鉢に入れて山羊の乳と混ぜ、少量の松脂を加える；それらを一緒によく燃やした後、皮の切れ端にのせて膏薬の形にし、胃のあたりに暖かくして貼る。あるいは、家畜の飼料桶の前の、動物の足によって踏みつけられて腐った土を取って、火にあててよく熱し、患部に塗る。そして、患者にはエンドウマメ、ソラマメ、カラスノエンドウ、生の果物や生の薬草のようなガスを発生しやすいものを控えさせる。また、子宮のガスには次のものもよい：クミン、ディル、カヤツリグサ、ウコン (setwall; zeduale)、ヒメウイキョウの粉を3ドラクマずつ、甘松香、シナモン、ムギセンノウを1ドラクマずつ、カストリウムを半ドラクマ、蜂蜜を3オンス、テレピン油を1オンス；これらすべてのもので座薬を作り、秘所に挿入すると、あらゆる種類のガスは消滅し、子宮内で腐敗した分泌物の分泌閉止は終わり、すべての悪臭は消え去る。また、イラクサの葉は粉にして下腹部にあてると、苦しむ患者に直ちに効く。さらに、ヘンルーダは、粉にして雌鶏かガチョウの雄の脂身で煮て体の前と後ろに暖かくして塗るとすぐに効く。さらにまた、イラクサの種をワインと一緒に飲むと膨張やガスは直る。さらに、15グレインのシャクヤクをワインで煮て飲むと、子宮の沈降をなくし、そうした悩みを助けてくれる。さらに、オイルの澱を温めてこれにオイルを加えたものは、子宮の膨張をなくしてくれる。その上、テレピン油も、汚れを除いて搾ったハナハッカの温湿布や、サピナビヤクシンもそうであるが、きれいにし、粉にして用いた苦味のあるアーモンドも、内部にあるものをすべて、そして悪い体液をすべて追い出してくれる。そして蜂蜜とともにウマノスズクサを [f.211v] 内部に塗ってもよいし；ヨモギの汁と一緒にミルラを飲んでもすばらしく効く；同じく、キダチハッカは死んだ胎児を排出してくれる。

過剰な血液の流出について。ミチヤナギの汁と混ぜたガチョウの雌か山

羊の糞の座薬を作って用いると、あらゆる出血が止まる。オオバコ、オークの木の中核部の樹皮、シェパーズロッド (shepherd's rod ; virge pastoris), ミチャナギの風呂が効き目があり、そして他の同じようなエンピリコンを飲めば、子宮の出血を止めることができる。

出産後の痛みために：茹で卵の黄身、粉にした蜜蝋、オイル、ヨモギの汁、シナモンの粉末を取って、体の前と後ろに膏薬を作って貼ると、痛みは薄くなる。また、熱があるならば、茹でた玉ねぎを取って、茹で卵、オイル、クミンの粉末と混ぜて搗りつぶし、膏薬を作る。

(3)子宮の腫れは女性が排出すべき血液の閉止のせいであることがときにあり、その場合その血液が排出されなければ、治癒されない；ときにはその病気は子宮内にあるガスや粘液のせいであり、その場合、患者の体はまるで妊娠しているかのようにこの腫れで膨れる。この腫れを別の病気と見分けるさまざまな徴候がたくさんある；この膨張は突然起こるが；他の腫れはそうではない。この腫れは出たり引いたりするが、他のものは女性が子供を産むまでずっと持続する；この腫れはあちこち動くが、他のものはそうではない。また、この腫れの動きは不明確だが、他のものは確かに昼でも夜でもある特定の時に動く。しかし、[f.212r] 子宮の腫れの場合、その運動は夜間に頻繁であり、昼間は減多にない。また、子宮の腫れの場合、頬がしなやかで柔らかく、青白い；しかし子供を妊娠している女性は、他の時はよい血色で、頬は堅く、大きな違いがある。また、子宮の腫れと子宮内にガスのたまるのも違う：なぜなら、ガスは簡単になくなるが；腫れはそうではないからである。さらに、ガスは時には子宮の一方の側に、時には別の側にたまるが、腫れは子宮全体に広がる。また、ガスは常に子宮内にあるもので、子宮を大きく損なうことなくそこに留まりうるので、子宮内部にあって排出することのできない粘液を破壊しようとするのは賢明ではない。

(3) 第六章には章題がない。

治療：この病気にかかった子宮を治療するには、子宮中にある体液を排出させなくてはならないが、この手順はすでに子宮の下降と血液の分泌閉止との関連で述べている。しかしそれでも述べておくと、タイム、カラミント、ハナハッカ、キダチハッカ、ラヴェンダー、ヘンルーダ、ペニロイヤルハッカ、野生のタイム、ヨモギ、ゲッケイジュの葉をそれぞれ一つかみずつ、ヒヨス、クミン、ヒメウイキョウ、野生のセロリ、ロヴァージュ・アンゼリカ、チャーヴィル、パセリ、ホース・パセリの枝を入れた風呂に入らせる；それらを水に入れて煮て、この熱い薬草湯に我慢できる限り長く浸からせる；そして風呂から出たら、薬草を子宮のあたりにあてる。次に述べるのは、そうした粘液を子宮から排出させる座薬である：ムギセンノウを粉に挽いたものを取って、蜂蜜とオイルを混ぜ、パン生地ぐらいの堅さにして、その練り粉を柔らかい麻布で包み、患者の秘所に入れる。[f.212v] しかし、子宮がその座薬をすっかり引き込んでしまわないように、腿のあたりに糸で結んでおき、一晩か必要ならもっと長くそのままにしておく。リークを細かく碎き、その汁とともに炒めてまず膏薬を作り、へその下から秘所にかけてとその上に塗る。翌日、もしムギセンノウの強さのために子宮の内部がひりひりしていたら、バラ・オイルかスミレ・オイルおよびスミレの汁と卵の白身から作ったトラガントゴムと一緒に混ぜて、治癒するまで患部に塗る。この腫れにかかった女性がロンドンにいて、ロンドン中の医者すべてから治療不可能とみなされていた。しかし彼女は、自ら常識を働かせて、次のような薬草でポタージュを作ってみた。オランダガラシを一つかみ、ノゲシ、野生のセージ、パセリ、カッコウソウ、ノコギリソウ、キンセンカをそれぞれ一つかみの六分の一取って、ポタージュを作り、できる限りたくさん新鮮なうちに食べる。この薬草の流動食の他はすべての液体を控え、その代わりに彼女は一晩に九回、昼間には十回これを食べ、もし何らかの場合に何か飲まなければならなくなると、次のような薬湯を飲んだ。鉢一杯の大麦と、ニガヨモギ、ホース・パセリ、パセリ、アニスの実、ウイキョウ、キンセンカ、野生のセージ、ノゲシ、

グリーン・エンダイブをそれぞれ1ポンド取って、3ガロンのきれいな水にこれらをすべて入れて半分蒸発するまで煮る。そして彼女は常にこれを飲み、足全体を火にあてて炙り、その後ゴボウの葉で足を覆う。そしてそのようにゴボウの葉で足を覆うと、それが [f.213r] 痛みを起こすものをすべて外へ引き出してくれる。そして彼女は秘所をペニロイヤルハッカ、ハナハッカ、ヨモギの汁で、空気袋のついた管を使って洗い、秘所を通して子宮にその液体を流し込んだ。そして彼女はクレタ島産ハナハッカ、ヤナギハッカ、キダチハッカで膏薬を作り、それを秘所の外側に貼ると、この膏薬は彼女に月経をもたらし、この薬で彼女は治癒された。彼女が食べたパンは次のようなものである：豆の挽き割り粉を9ペック（=2ガロン）取って、酢と一緒に練って焼き、このパンを先に述べたポタージュとともに食べる。そして彼女はクリスマスローズの汁で体の肝臓のあたりを洗った。

{第七章は、子宮が擦りむけたと思われるときに起こる擦り傷についてである。}

子宮はしばしば、まるでやけどをしたかのように擦りむけ、ひりひりするように思われる。これは、自然の胆汁液が消費されて子宮内部で燃えたときに起こる。この病気の徴候と症状は、内部の焼けるような熱さ、刺すような痛さ、ひりひりする痛みである；そして時として、子宮はそうした体液によって内部が火ぶくれになってかさぶたができ、体内に大きなかゆみを感じる。

治療：こうした悩みを持つ女性を治療するためには、バラの汁で作った練り薬で清めて、その後冷たい薬草風呂に入らせ、足の内側の踝の下の静脈の所で瀉血をする。そしてその後リチウム (licium: 何かの植物の汁を乾かして作った薬用の粉) を牛乳と混ぜ、男性の場合に浣腸で肛門から胃を洗浄するのと同じように、膣座薬 (pessary; pissarie) を用いて子宮の中に注入する。一度に1ポンド入れ、三日目に、あるいは [f.213v] 三日

ごとにこれを用いると、患者はよくなるだろう。もう一つの粉薬は次のようなものである：白いケシの種、アラビアゴム、トラガカントゴム、スラグをそれぞれ1オンス取って粉にし、雨水と一緒にして丸め、必要なときには牛乳を混ぜて、腔座薬を用いてその薬を秘所に挿入させる。また、仔牛の骨髓やバター、その他新鮮なもので内部に油を塗り、子宮から腐敗した体液を取り除く際には、その女性を永久に不妊にはいけないので、強すぎるものを内部に入れないように気をつける。しかしこれらの物質を使えば子宮は楽になるだろう。そしてもし女性が貧しいならば、ビロウドモウズイカとリンボクの樹皮を皮なめしの水に入れて煮て、よく煮えたらその中に体をへその上まで浸けさせる。患者が疲れたら、風呂から出して次のような燻蒸をさせる：バラの葉、クローブ、乳香、ミルラをそれぞれ1ドラクマ取り、一緒に搗り潰して、それができたら粉を小さな炭の上に落とし、患者をその上にしばらくの間しゃがませる。あるいはマスチック、アルメニア産膠灰粘土、レムノス島の土、ニガヨモギ、石灰のかかっているオークの木から取った粉、サンドラゴンをそれぞれ1スクルーブル、金密陀を2ドラクマ取って、これらを非常に細かく粉にし、慎みある女性にこれをひりひりするところにつけさせると、この粉はそれを治してしまうだろう、等々。

{第八章は非常に痛みのある子宮の炎症についてである。}

子宮の炎症はさまざまな部分で起こる；時には子宮の最奥部で、時には入り口付近で起こる。もし子宮のずっと奥の方であれば、女性は痛みを [f.214r] 横隔膜から秘所にかけて覚え、横腹が膨らむ；そして呼吸したり、息をついたりするのに困難を感じる。しかし、きわめて不快なのは秘所と腎臓のあたりの痛みである。そしてこの炎症は時には熱い体液から、時には冷たい体液から生じる。そしてもしこれが血液のせいなら、炎症の原因となっているものが集まっているところに痛みがあり、絶えず微熱を出し、足の静脈が腫れてくる。尿は鮮紅色で、時にはどんよりと赤くなることも

あり、肛門の開口部に暗赤色のものが見える。これが胆汁すなわち熱く乾いた体液によるものならば、先に述べた症状がある。しかしその場合は血液による症状よりもっとひどい：尿はきわめて薄く、鮮やかな黄色となり、脈は非常に速く、病気ははっきり現れる。なぜなら熱い体液が胆嚢の中で優勢になっているからである。しかしもし病気が冷たい湿った体液のせいであるなら、子宮に不快感と重苦しさを覚え、尿は濁って色が薄く膀胱の開口部は灰色である。そしてもし病気が黒胆汁、すなわち冷たく乾いた体液のせいであるなら、子宮にひどい重苦しさを感ず、足の静脈は鉛のような暗黄色になり、そうした女性は微熱を出す。しかし、子宮に炎症がある場合で尿が白く薄いとき、それは手当が必要な微かな徴候である。こうした悩みを救うには、まず踝の下の静脈の所で瀉血をする；その後、腫れが始まったばかりの時に、病気の種を追い払い、寄せつけないための冷たい膏薬を用いなければならない。このためには、タイマの中心部分と温めたイヌホウズキの汁で膏薬を作り、炎症の箇所に二度、三度貼って、一日そのままにしておく。[f.214v] 炎症に対してはバラ・オイルかスミレのオイルを子宮に塗る。そしてもし炎症が熱さや熱い体液のためであれば、スベリヒユ、レタス、エンダイブやその他同様の冷性の薬草を食べさせ、そうした薬草から蒸留した水を飲ませる。その後、腫れが十分大きくなったら、それを大きく化膿させ、壊れるほど柔らかくする膏薬を準備する；その膏薬は、オイルや新鮮なバターと少しの水で煮た小麦の挽き割り粉から作ったものである。別のものでは、灰汁を混ぜた亜麻仁やコロハと挽き割り粉の膏薬を作るが、灰汁はあまり強くないように気をつける。あるいは、強い灰汁を大麦の挽き割り粉と混ぜてそれで膏薬を作る。または、普通のオイル、発酵したパン生地、新鮮なバターか脂肪、そしてセロリの汁をそれぞれ2ドラクマ、亜麻仁とコロハを1ドラクマ、より分けたウスベニタチアオイを3ドラクマ、カタツムリの汁を半ドラクマ取って；これらをすべて一緒にして煮る；この処方の効果があることが証明されてきた。しかし、もし炎症が冷たい体液のせいであるならば、必要な量のウイキョウの

根、パセリ、セロリとセロリの種、野生の人参、ヒメウイキョウ、ハツカダイコン、ホース・ヒール、砂糖水、そして蜂蜜で作ったシロップを患者に飲ませなさい。そしてこの炎症の始まったときにはまた、ハナハッカ、ヤナギハッカ、ヤグルマギク、ヘンルーダ、クサノオウ、それぞれ1ドラクマを水に入れて煮て、温めておいた膏薬を貼らせる。その後、腫れが十分大きくなったら、それを化膿させるための膏薬を用意する；それは次のようなものである：小麦、スマレのオイル、蜂蜜を取ってそれらで膏薬を作る。あるいは小麦または亜麻仁から作った粉末とともに蜂蜜で煮たカタツムリの膏薬を作る。または、ツルボランの根を砕いたもの、干しブドウや干しイチジクを灰汁、ワイン、[f.215r] オイルとともに煮た膏薬を作りなさい。あるいは発酵したパン生地をオイルに入れて煮た膏薬；ヘンルーダをワインとオイルに入れて煮た膏薬；あるいはウイキョウの実とセロリ、ヘンルーダを潰してオイルと一緒に煮た膏薬を作る。そして患者にデュート (deute; dewte: 軟膏の一種。ノコギリソウ、イヌハッカ、ヒヨス、その他の成分から成る) やマルキアトン (marciation; marciaton: 骨や節々の痛みにしばしば薦められていた軟膏) のような熱い軟膏を塗るように気をつけなさい。腫れを化膿させるのにたいへん効き目のある他のものは、雌鶏やガチョウの脂肪、雄ジカや仔牛の骨髄、赤い蜜蝋、母乳、卵の白身である；これらのものは外部に膏薬として貼ってもよいし、秘所に陰座薬によって挿入しても効果がある。そして腫れが破れると、化膿した膿や流れ出してくる膿によってわかるだろう。そのとき、蜂蜜酒を22ドラクマ取って温め、それに7ドラクマの澄んだ蜂蜜を加え、子宮を洗浄するために陰座薬で16オンス注入させる。あるいは前の章で述べられた他の薬を用いさせる。

{第九章は子宮の痛みについてである。}

子宮の痛みは、早産で死んだ子供のせいで起こることがある。母親は胎内にいる子供に大きな満足感と幸福感を抱くので、それを失うと、ちょう

ど雌牛が仔牛をなくしたときのように自然に死を悼んで嘆き悲しむのである。そしてその悲嘆が子宮の痛みを引き起こす。また、寒さのせいで子宮が痛むこともある；熱のために痛むこともあるが、これは稀である。もし寒さのせいであれば、左脇腹がずきずき、ひりひりしたり、すでに述べた他の症状が現れる。[f.215v] これを治すには、ペニロイヤルハッカ、ハナハッカ、ゲッケイジュの葉、カラミント、ゼニアオイを取って、水とワインの中に入れて煮て、へそから秘所にかけて患者の子宮をその液体で洗ってやる。その後、クローブ、甘松香、ナツメグ、カヤツリグサを取って、燻蒸する。あるいは他に、ミルラ、乳香、ハナハッカ、カラミント、イトスギ、アニスを取って燻蒸する。またはラダヌム (ladanum; laudanum: ゴジアオイ属の植物から採った樹脂) で燻蒸してもよい。私が前に述べた他のものも、寒さによるものでも熱によるものでも子宮の痛みにはよい。しかし、女性が子供を産んだ後に起こる子宮の痛みに対しては、ヘンルーダ、ヨモギ、ニガヨモギをそれぞれ一つかみ、ショウノウを2オンス取って搗り潰し、ショウノウを粉にしてしまっ、それらをタイムのオイルで煮る。火の上でよく熱して、布に包み、へそから下にあてる。また、子宮の硬化による痛みに対しては、ハリナデシコ、ノボロギク、古くなったキャベツ、ヨモギ、ゼニアオイ、カッコウソウを取り、水に入れてよく煮てから、その水に女性を乳首のあたりまで浸からせる。そこから出ると、ゼニアオイ、ニガヨモギ、ショウノウを野生のタイムのオイルかゲッケイジュのオイルと一緒にして潰し、火にかけて熱した膏薬を作り、子宮のあたりにあてる。同じ症状に対して：コウスイハッカと呼ばれている薬草の葉を二つかみ、ニガヨモギとゼニアオイをそれぞれ半つかみずつ取って、少量の白ワインとゲッケイジュのオイルを混ぜて潰し、先に述べたように手当をする。時には女性が子供を産んだときに、以前は女性の体内を満たしていた子供が突然いなくなったために、子宮が腹部内であちこち動き、痛むことがある。そしてこうした病気には、ニワトコの新芽を取って砕き、汁を絞り出し、[f.216r] この汁に卵、小麦の挽き割り粉を混ぜ、薄く平た

く固めて新鮮な脂肪で揚げると、これが痛みを止める。そしてクミンを入れて煮た温かいワインを与えて、飲ませる。

{尿を検査することなく、女性が妊娠しているかしていないかを確信を持って証明しようとするなら}

もし女性が妊娠していれば、床につくときに蜂蜜酒を飲ませなさい。そしてもし彼女が腹部にひどい不快感を覚えたなら、それが妊娠している徴候である。また、ラーズイー (Rhazes; Rasis) が述べているように、女性に月経がないならば、ミルラの丸薬をセイヨウビャクシンを入れて煮出した水とともに飲むと、その後ひどく気分が悪くなる。そしてまた、それらは死んだ胎児を排出させる。その理由は、この丸薬が細長い膠のような物質を作り出すからである。また、その丸薬は子宮を開いてやわらげ、有毒物を取り除こうとする体の自然力を強化するので、効果がある。さらに、死んだ子供を子宮から排出させるものは、出産を楽にするのを助けるものよりもずっと強力でなくてはならない。死んだ子供を子宮から引き出してやるものは次の三つである。一つめは、山羊の乳で溶かした2ドラクマの楓子香で、女性はこの乳を2オンスか3オンスは楽に飲むことができる。二番目は次のような座薬を作ることである：黒オリーブのオイル、ヒエンソウ、円いウマノスズクサ、ローズマリー、マヨラナ、ゲッケイジュの種、コロシントウリの水気のある部分、アンモニアゴムをそれぞれ2ドラクマと1ドラクマの雄牛の胆汁を取って；粉にし、別にヨモギの汁に溶かした芳香性の樹脂を用意して、これを他の材料と混ぜて座薬を作る。あるいは、雄牛の胆汁とヨモギの汁をもう少し取って少量のオイルと混ぜて墮座薬を作る。[f.216v] 子宮から子供を排出させるもう一つの膏薬は次のようなものである：楓子香を半ポンド取って、ヨモギの汁と混ぜ、長さは指の長さの二倍で幅は小さな手のひらぐらいの大きさの皮の切れ端の上のぼして、へその下の秘所に近いところにあてる。もう一つの膏薬：ヘンルーダの汁を半ポンド、粉末のミルラを4ドラクマ、コロシントウリを3ドラク

マ取って、静かに混ぜ合わせ；膏薬を作り、暖かくしてへその下の子宮のあたりにあてる。また、出産を促すときには、カシア果の皮を6オンス取って、それをワインかヒヨコマメの煮汁とともに飲む。別の薬：ハシバミ、注意深く粉にした乾燥カストリウム（beaver-gland; castorei: 海狸香）をそれぞれ2ドラクマ取って、ゆでた赤いヒヨコマメと合わせて与える。三番目の薬はアヴィセンナが次のように述べたものである：ミルラ、乾燥したカストリウム、ゴム、カラミントをそれぞれ半ドラクマ、極上のシナモンの内皮とサピナビャクシンを半スクループル取って粉にし、この薬を分娩中の女性に少量の蜂蜜とともに与えると、出産と後産を大いに助ける。もう一つのこと必要である：すなわち、膝をへその方に近づけて体を締めさせ、それから非常に効き目があるので、吐剤を与える。また、根の付いたままのキンミズヒキを取って、根を子宮の方に向けて置き、出産が終わったら、子宮がそれに続いて出てこないように取り去ってしまう。そしてこの試みは、医者谁也が言うことによれば、もし神がそう望むならば、出産を大いに助ける。

{第十章は、出産時に女性がかかる病気についてである。}

出産する女性のかかる病気は二種類あり、自然なものと不自然なものがある。自然な病気の場合、子供は [f.217r] 二十回の激痛を経て、あるいは二十回以内に外に出てくるし、然るべき方法で出てくる：まず頭、その後首、そして腕、肩、それから他の部分がおそらく順に出てくる。第二の方法では、子供が不自然に出てくるが、これには十六の種類があり、それぞれの章で知るだろうが、第一のものは次のようなものである：

子供の頭が出てきたときには、いわば、頭が最初で、子供の体の残りの部分は子宮の中に残されている状態である。これに対する療法は、産婆が手にオイル、すなわち野生のタイムのオイル、混じりけのないユリのオイル、あるいは必要ならジャコウのオイルを塗り、手を子宮内に入れて、子供の体の向きを変える。そして、子供がちゃんと外に出てこれるように、



1



2



3

子宮の開口部に十分オイルを塗っておく。

不自然な出産の第二の形態は、子供の足が一緒に合わさって出てきたときに起こる。子供がそのように出てきたときには、産婆は決して子供を引き出さないようにするしかない。しかし、子供がこのような形で出始めたら、産婆はオイルを塗った手の中に入れて、子供を再び押し戻し、最も自然な形で出てくるように整えてやり、子供が手を伸ばして子宮の壁にへばりつかないようにする。

第三の不自然な形は、子供の頭が大きいかさばりすぎて出てこられない場合である：[f.217v] この場合、産婆は子供を押し戻し、出口すなわち子宮の開口部に新鮮な五月のバターか普通のオイルを塗って、先にオイルを塗った産婆の手の中に入れ、出口を広げ、頭から子供を出す。

第四の不自然な出産では、分娩中の女性は短く、狭い、高く固定したベッドの上に置かれ、頭をベッドから垂らす。そして産婆は手にオイルを塗って押し入れ、不自然な位置にある子供を探し、正しく向きを変えて取り出す；しかし、女性が横たわるベッドは固いものでなければならない。

不自然な出産の第五の形は、子供が手をまず伸ばして、頭を引いていて、子宮の口が狭いか、閉じている場合に起こる；その場合、産婆の手による誘導で、子宮の口が広げられねばならず、産婆の過ちの結果、子供が死ぬ



4



5



6



7



8



9

ことがないよう子供の手は一度中に入れる。産婆が手の中に入れ、子供の肩を後ろへ向け、手を脇に沿って正しく下ろしてやるよう我々は指示する。そして子供の頭をつかみ；ゆっくりと外へ出す。

不自然な出産の第六の形は、子供が両手を肩から伸ばし、[f.218r]片手は一方に、もう一つの手は別の方に向け、頭はその方向と反対向きに後ろへ引いている場合である。産婆は、前の項で我々が述べたように、手で子供を再び中に入れる。すなわち子供の手を両脇に付け、頭を持って静かに外へ出す。もし子供の頭が小さいなら、そしてもし子供が手を先に出したら、産婆は秘所の出口に頭が来るよう整えてやり、神の恩寵によって子供を手で外へ出してやるべきである。

不自然な出産の第七の形は、子供が右足をまず出すときに起こり、産婆はこうした方法で決して子供を分娩させてはならない。まず指を使って子供を再び中に入れ；その後で、手の中に入れて、その足をもう一方の足と合わせて、できるならば両足を正しい位置に置いてやらなければならない。そして、子供の手を脇に付け、足は然るべきようにして、外へ出す。

不自然な出産の第八の形は、子供が両足を外へ出し、先に述べたように、子供の体の残りの部分が体内に曲がって残されているときに起こる。産婆は手をぐいを入れて、子供の体型を注意深く整え、先に述べたように外へ



10



11



12



13



14



15

出してやる。

不自然な出産の第九の形は、子供が片方の手と足を広げて出し、もう片方の手で顔を覆っている場合に起こる。産婆は、分娩中の女性の鼠径部に指をあて、[f.218v]前に示したように、もう一方の手で子供を中に再び入れ、可能であれば子供を外へ出してやる。

不自然な出産の第十の形は、子供がまず両足を合わさず離して、片手を両足の間に置き、頭を後方に垂らしている場合に起こる。産婆は手を中に入れて子供の位置を正し、両手を脇に付け、頭を最もよい位置に直して、両足を正しく整え、子供を外へ出してやる。

不自然な出産の第十一の形は、子供の首が先に出たときに起こる；この時、産婆は手で子供の肩を押して再び中に入れ、子供を高い所まで引き上げ、子宮の出口まで引き下ろして外に出す。

不自然な出産の第十二の形は、子供がまず膝を折り曲げて出てきたときに起こる；その時、産婆は子供を再び中に入れ；手を女性の鼠径部の両側にあて、オイルを塗った自分の手を内部に入れ、膝の位置を直す。そして産婆は子供を肩のところをつかみ、非常に静かに後ろ向きに引き出す。そして、足の位置が直され、子供が正しい場所におさまったら、神の恩寵と産婆の熟練によって子供を外へ出す。

不自然な出産の第十三の形は、子供がまず腿から現れ、でん部から最初に出てくるときに起こる；産婆は手でその足を持って子供を再び中に入れ、それから



16

[f.219r] 子供を子宮の出口まで導き、うまく分娩させる。

不自然な出産の第十四の形は、子供の頭と足の裏が一緒に出てきた場合である；そうした状況では、産婆が手を秘所の中に入れ、子供を持ち上げて子宮内に押し上げるよう我々は指示している；それから子供は頭をつかまれて外に出されなければならない。

不自然な出産の第十五の形は、子供が腹ばいで横になるかあるいは仰向けになり、その足と手が頭を覆っているときに起こる。その場合、産婆は手を中に入れ、指で子供をまっすぐにし；できる限り頭を前へ引き寄せ、子供を外へ出す。

不自然な出産の第十六の形は、毎日のように起こるが、子供が一人より多い場合で、子供達すべてが子宮の出口に同時に到達したときに起こる；その時、産婆は子供のうちの一人を外へ出すあいだ、もう一人を指で押し戻しておく。そしてその後、あとの一人を取り出す。しばしば起こることだが、子宮が収縮したり、子供が死んだりしないようにそうするのである。

女性に子供を分娩させたり、子供が出てこないときにこれを殺すためには：ヘンルーダ、サビナビヤクシン、サザンウッド、アイリスを取り、それらを飲ませる。また、ヤナギハッカ、クレタ島産ハナハッカの汁をそれぞれ2ドラクマ、水銀を2スクループル取るが、この薬は効き目があることが試された。また、アイリスの汁、雄牛の胆汁をそれぞれ4ドラクマ、適当なオイルを2ドラクマ取って、一緒に混ぜ、膾座薬に入れて女性に与えると、この薬は子宮の腐敗した物質をすべて外へ出してくれるだろう。そして、死んだ胎児、後産を分娩させ、月経をもたらすだろう。さらに、妊娠中の女性に2ドラクマの阿魏を一日三回与え、胃のあたりと背中にオイルと胆汁を塗り、その後、オイル、雄牛の胆汁、阿魏を羽毛を用いて外陰部に塗る。

[f.219v] そして出産時の女性がかかる病気は、子供の病気からくることもあり、これは、母親が水腫症（むくみ）にかかる前に、子供が子宮の中でかなり大きくなってしまふことが原因かもしれない；そしてこれには

産婆は気がついており、女性自身にもわかっている。そして、時には子供を分娩するのに十分なほど強くないという女性の弱さから病気が起こる。そしてこれには二つの種類がある：女性がすでにかかっている、非常に彼女を弱くしている重病によるもの；あるいは、女性が大きな不安を抱くことによるもので、十二年間妊娠し続けて初めてのお産である場合に起こる。時には、子宮が閉塞していることから病気が起こる。そしてこれには二つの理由がある：肥満のため子宮の口が塞がれ、子供を妊娠する前に排出しておくべき血液が残っているため；または、子供が子宮の中で死んでいるために起こることもある。そしてその徴候は次のようなものである：体中の子供の活動や動きをまったく感じない；陣痛のあった二日目に子宮腔に異臭がある；へそのあたりに大きな痛みがある；顔や体全体が衰弱している；体に有害なものを欲しがる；起きる時間が長く、少ししか寝ない；小便をしたり、厠に行くのに大きな支障があり、性器にひどい不快感がある。そしてもし子供がしかるべく外へ出てこなければ、産婆は他の薬を用いなくても、私が先に述べたように十分うまく手助けすることができる。しかしもし病気が私が述べたもののうちのどれかであれば、ゼニアオイ、
[f.220r] コロハ、亜麻仁、ニガヨモギ、南ヨーロッパ産ニガヨモギ、ヒカゲミズ、ウイキョウ、ヨモギを煮出した風呂に入れ、長時間入浴させなさい。そして風呂から出たら、へそのあたりから秘所にかけてバター、デュート、アラゴンの軟膏を前と後ろの両方に塗るようにする。そしてその後、1オンスの甘松香と1オンスのコストマリーの根で下から燻蒸する。そしてまた風呂から出たときに、その女性が裕福であれば、温かいワインに1オンスのバルサム樹の汁を入れて与える；もし貧しい女性であれば、コストマリーの根とヨモギをワインで煮て、2オンスの雄牛の胆汁をそれに加え、風呂から出たときにその混ぜたものを飲ませる。あるいは、2オンスのホウ砂をワインと混ぜ、それを飲物として与える；または、クレタ島産ハナハッカの汁、ヤナギハッカをそれぞれ3ドラクマ、水銀を半スクループル与えると、この薬は生死に関わらず胎児を体外へ排出させ、ラーズィー

の指示によれば、ミルラの丸薬と一緒に与えるとさらにもっとよく効く；すなわち、ミルラを2オンス、ルピナスを2オンス、野生のミント、タイムとともに乾燥させたヘンルーダの葉、クルマパソウ、ヤマヤナギ、阿魏、ラン、トチバニンジンの汁、楓子香、芳香性のゴムをそれぞれ8ドラクマ、必要であれば良質のマルムジー・ワインをいくらか取る。それぞれ重さ2ドラクマの小さい錠剤状の丸薬を作る。杜松の油をたらししたワインとともにこれらのうちの一つを患者に与える。なぜなら、これらは難産に効果があり、後産を排出させ、子宮の奇胎を消滅させるからである。もしこれらのものを手に入れられなければ、水で煮たヨモギの膏薬を作り、へそから秘所にかけてそれを貼ってやる。というのはこの膏薬は、子宮の中で子供が生きている場合も死んでいる場合も、速やかに女性に出産させ、
[f.220v] 後産を排出させるからである。しかし、この膏薬を非常に長い間貼ったままにしておかないように。子宮までも引き出してしまうからである。陣痛中の女性やその後の激痛のためのすばらしい、貴重な粉薬は次のようなものである：カシア果のさやを3ドラクマ、キダチハッカ1オンス、ヤナギハッカも1オンス取る；これらをすべて粉にし、温めたクマツヅラの汁に入れて女性に与える。そして、この水薬は飲むと速やかに分娩を起こさせ、後産を引き出す。また、出血の止まっている女性には直ちに月経を起こさせる。さらに、分娩中の女性の体の下にシクラメンを広げて敷いておくと、速やかに出産させることができる。

クマツヅラの汁は、飲むと同じ効果がある。その代わりに、卵の殻にリークかクレタ鳥産ハナハッカ、ゼニアオイの汁をいっぱい入れて飲ませてもよい。これらのものとサビナビャクシンもまた女性に子供を出産させる大きな力がある。そして男性が手を洗って、その皮膚に付いた水も同じ力がある。出産が始まろうとする徴候は、子宮内の身動きが大きくなり活動があって、時には子宮がそっくり胃まで持ち上がり、産みたいという強い気持ちで女性に起こさせる；そしてへそのあたりに大きな重圧感を覚えるが、子供は母胎から抜け出ようと活発に身を奮い起こす。それから母親の

鼻孔をふさぐと、精気は子宮の方へ降りていくことが可能になり、難渋している女性を元気づける。そして、雄ジカの皮の腰帯をつけさせる。そしてもし女性が気絶したら、甘い匂いのするものを鼻に近づけ、足の裏や手のひらを塩や酢などの刺激の強いものでこすり、座薬の形にした香油、すなわちバルサム樹の汁は、[f.221r] 女性に子供を分娩させる；これは後産も引き出すが、その後、女性は不妊となる。そして、ヘンルーダとヨモギの汁は子宮内で死んだ子供の分娩を速やかに引き起こす。コショウの粉やカストリウムの粉を鼻の上から振りかけて、患者にくしゃみをさせるのもまた役に立つ。そしてキダチハッカの汁を飲むと、女性に速やかに子供を産ませることができ、もしその薬草を子宮の上あたりに貼れば、子供が生きていても死んでいても、外へ出すことができる。碧玉と呼ばれる貴重な石は、出産時の女性を助ける大きな力がある。また、子宮に死んだ胎児がいる女性に対しては、蜂蜜と混ぜたブナノキの汁を与え、ニガヨモギの膏薬を作り、それを左の腰にしっかり貼っておく。女性の乳とオイルを一緒に飲むと出産を促す。別の処方薬：サピナビヤクシン、グラジオラスあるいはアイリス、南ヨーロッパ産ニガヨモギ、ヘンルーダ、クレタ島産ハナハッカ、ヤナギハッカ、キダチハッカをそれぞれ半ドラクマ；それらをよく砕いて3オンスの最上等の白ワインに入れて飲むと、速やかに出産する。